教科「国語」シラバス

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(教科名) 国語 (科目) 現代の国語	2 単位	高校 第 1 学年	『精選 現代の国語』(明治書院) 『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500』(いいづな書店) 『現代文解答力の開発講座』(駿台文庫) 『現代文のキーワード読解』(Z-KA I)
学習の到達目標	①社会生活において必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする(知識の習得)。②他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす(表現力と共感力)。③言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う(探究力と想像力)。		
評価の観点	<p>基本的な漢字・語彙や、評論文が扱う概念・思想などの知識を習得し、それらを文脈の中で活用する力を身につけている。《知識・技能》</p> <p>叙述をもとに内容・構成・論理の展開などを的確に捉え、目的や意図に応じた根拠の示し方や説明の仕方により、読み手の理解を得られる表現ができています。《思考力・判断力・表現力》</p> <p>自らの力で主体的に本文を読み解き、内容や構成を正確に把握する力や、他者との対話や議論を通して、他者の考えに共感する力を身につけている。《主体性・多様性・協働性》</p>		

【定期考査における観点別評価について】

年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・協働性》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい科目や課題について】

- A : 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%
- B : 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの…… 80%
- C : 「努力を要する」状況と判断されるもの…………… 60%
- D : 未提出、未実施…………… 0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学期 中間 考査 まで	①自分の時間で読み継ぐ(長田弘) ②わかりあえないことから(平田オリザ) ③白書 資料やデータをもとに仮説を立てよう	①「何をどう読むか」だけでなく、「何を何によってどう読むか」という視点をもって、「読む」ことの豊かさについて考える。 ②「対話」の意味と重要性を、的確に読み解くことができるようにする。 ③目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開 などについて評価したりする。	読み解いた結論の所在や論拠の示し方など、評論文の基礎を知る。 使用教材：『精選 現代の国語』プリント
1 学期 期 末 考査 まで	①時間をめぐる衝突(内山節) ②未来を予測する最善の方法(松田雄馬)	①「村の時間」と「都市の時間」との相違点を理解させる。筆者が述べる「無事な世界」を確認するとともに「人の営みと時間との関係」について考えさせる。 ②情報化社会が発展した背景を考えるとともに、改めてその利点と問題点を考える。その上で「情報化社会」への理解を深める。 ①②評論文に頻出する単語や概念を知り、実際の叙述と結びつける。	具体例から筆者の意見を読み解く。 使用教材：『精選 現代の国語』
2 学期 中間 考査 まで	①働くことの意味(内田樹) ②現代社会はどこに向かうか(見田宗介)	①「労働」「贈与」について、筆者の考えを理解させる。文章の構成に注意し、具体的な例示がなされながら、筆者の見解が述べられる過程をたどり、筆者の主張を読み取る。 ①現代社会を読み解くキーワードを手掛かりにして現代社会の特徴について考える。	理解や表現のために必要な語彙を増やし、読解に役立てる。 使用教材：『精選 現代の国語』、プリント
2 学期 期 末 考査 まで	①世界中がハンバーガー(多木浩二) ②羅生門(芥川龍之介) ③わかりやすい文を書く	①グローバル化が進み、産業資本の力により国境を超えて世界が一つになっていくという都市の世界化、世界の都市化を、ハンバーガーというわれわれの生活に身近な食べ物を軸に論理的に論じていることを理解する。論理の展開に即して筆者の主張を読み取る。 ②文章の種類を踏まえて、内容や構成、表現などについて叙述をもとに的確に捉え、文章を味わう。自分の抱いた疑問や感想を適切に表現する。 ③文節相互の関係に気をつけながら、明快な文を作成する。	筆者の言葉選びにも着目し、意図を適切に読み取る。 使用教材：『精選 現代の国語』、プリント

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 学 期 期 末 考 査 ま で</p>	<p>①対話する社会へ（暉峻淑子） ②〈普遍語〉とは何か？（水村美苗） ③他者を説得する文章を書く</p>	<p>①現代社会において、対話による平和実現の可能性を考察する。 ②筆者の主張を文脈に沿って丁寧に読み解く。筆者の表現に注意して〈書き言葉〉の役割を的確につかみ、主題である〈普遍語〉と「二重言語者」の関連を読み解く。漢字や語の意味、副詞の呼応などの言葉の働き、表記などの表現上の工夫、それぞれを十分に理解し、国語の基礎的知識を習得する。 ③情報を適切に整理し、論理の展開に沿って読むことで、未知の概念にも一定の理解ができるようにする。また、推論の仕方を理解し、自分でも使いこなせるようにする。</p>	<p>記号化について理解し、言語の価値を再確認する。</p> <p>使用教材：『精選 現代の国語』、プリント</p>
--	---	--	--

<p>【成績評価の概要について】</p>	
<p>(1) 学期における評価の対象</p>	<p>①中間考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ②期末考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ③漢字テスト・語彙テスト・授業内課題の提出・課題問題集の提出・授業中の態度：50点（関心・意欲・態度などの評価）</p>
<p>(2) 学期評定の算出方法</p>	<p>定期考査の素点合計200点に対し、平常点合計は50点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。</p>
<p>(3) 年度末評定の算出方法</p>	<p>定期考査の素点合計500点に対し、平常点合計は125点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。</p>